

科目名	核医学検査技術学臨床実習			分野・必選別・単位数	専門実習科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 講師 横塚記代			配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース	科目ナンバー	T3D102
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	実験・実習
授業の概要	核医学検査技術学臨床実習では豊富な症例、最先端の核医学機器を有する実際の医療現場で、核医学検査技術に関する深い専門知識と最新の技術を実際に修得する。本科目では机上の知識を実学へと昇華させる実践能力重視の教育を目標とするものである。なお、次年度に用意されている先端医療施設臨床実習への橋渡しを担う科目でもある。						
授業の到達目標	臨床実習により経験した、それぞれの放射線技術に関して医療的な側面および学問的な側面より概説できる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【行動目標】</p> <p>学部卒業後、臨床に就くこと無く、博士前期課程に進むことにより、学部での学内実習、病院臨床実習で培った技術、知識が時間とともに不毛となってしまう危険性が危惧される。そこで臨床の場において核医学検査技術学の実地研鑽を行い、その知識を有することを目標とする。</p> <p>診療放射線技師免許を有しているとはいえ、患者に対する医療行為を初めて行うことは並大抵のことではない。そこで経験豊富な先輩の診療放射線技師の教育、指導の下で実際に患者に対する医療行為を経験し、その知識を有することを目標とする。</p> <p>各週に経験した臨床実習に関して「臨床実習報告書(書式に基づいた簡単な備忘録)」を作成し、他の授業科目である「放射線科学特論」において原則、毎週、週の終わりにその週で生じた技術的な問題点などを報告し、必要な指導、助言を受けることにより、効率的な実践技術を修得する。</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の実習内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	実習中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回実習までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書							
参考書							
成績評価の方法および基準	臨床実習への取り組み姿勢80%、報告書20%						
その他履修上の注意事項	実習場所: 帝京大学医学部附属病院など 試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						